

平成26年3月27日

報道関係各位

**平成26年度 道総研の主な新規研究課題について****◆ 概要**

地方独立行政法人北海道立総合研究機構（道総研）では、平成26年度より以下の新規研究課題に取り組みます。

**■ 戦略研究：道の重要な施策等に関わる分野横断型の研究**

課題名	研究の概要
地域・産業特性に応じたエネルギーの分散型利用モデルの構築（H26～30）	地域が有するエネルギー資源を詳細に調査・分析し、有効に活用するための要素技術開発を行って、その地域に最適なエネルギー利用モデルの構築と提案を行う。

**■ 重点研究：実用化、事業化につながる研究や、緊急性の高い研究**

課題名	研究の概要
冬季の道産葉菜類供給強化に向けた無加温ハウス生産流通体系の確立 ○道南農業試験場，上川農業試験場	葉菜類の耐寒性および低温伸長性を明らかにし、道南地域と上川地域で冬季栽培可能な品目選定と作型開発を行う。また、品質について府県産との比較を行うほか、現地実証により経済性および市場性を評価する。
たまねぎ新品種「ゆめせんか」の加工特性解明と高品質安定生産技術確立による需要促進 ○北見農業試験場，十勝農業試験場	「ゆめせんか」の加工上の優位性を明らかにするとともに、栽培法改善による生産性の向上を図る。さらに、長期貯蔵中の内部品質変化の把握と、加工メーカーによる加工適性評価および新製品の試作を行う。
サケ稚仔魚の原虫病総合的予防技術の開発 ○さけます・内水面水産試験場	放流用サケ稚魚の飼育過程で発生する原虫病への予防対策の充実強化を図るため、道内における原虫病の実態把握、原虫病の発生機構解明および予防抑制技術の開発を行う。
林業用優良種子の安定確保に向けた採種園整備指針の策定 ○林業試験場	北海道の主要造林樹種であるカラマツ、グイマツ雑種F1、トドマツについて、採種園の整備・造成を促進させるため、造成適地を選定するとともに、必要面積・適正面積の評価を行い、採種園整備指針を策定する。
早生樹「ヤナギ」を活用した高品質シイタケの安定生産システムの開発 ○林産試験場	早生樹「ヤナギ」のおが粉をシイタケ菌床栽培に利用して、高品質シイタケを安定栽培する技術を開発し、実証試験を行う。また、原料製造・供給を含めた、高品質な菌床シイタケの安定生産システム構築を図る。
成熟化するトドマツ人工林材の用途適性評価と利用技術開発 ○林産試験場，林業試験場	中大径化が進むトドマツ人工林材について、資源管理の適正化と需要拡大を図るため、材質による用途適性の把握と腐朽木の選別技術を検討するとともに、製品製造技術を開発しながら将来的な利用モデルを提案する。
北海道産小豆粉の製造とそれを活用した食品製造技術の実用化に関する研究 ○食品加工研究センター，工業試験場	製菓・製パンで活用可能な小豆粉の製造技術と保存流通技術、および菓子・パン製造技術を開発し、小豆粉の生産から流通、さらに利用に至る一連の流れを構築することにより、道産小豆の新規需要の創出を図る。
火山体内部構造・熱水流動系のモデル化と火山活動度評価手法の高度化（十勝岳） ○地質研究所	次のマグマ噴火の準備段階に入っている十勝岳において、地球科学的総合調査による火山体内部構造や熱水流動系のモデル化を行い、確度の高い噴火予測に向けた火山活動度評価手法の高度化を行う。

実施期間：全課題 H26～28年度， ○は主管機関

**◆ お問い合わせ先**

北海道立総合研究機構 本部 研究企画部 副部長 佐藤 充孝  
札幌市北区北19条西11丁目  
TEL: 011-747-2805 FAX: 011-747-0211  
E-mail: satou-mitsutaka@hro.or.jp